令和５年度　第３回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定・推進協議会　議事録

開催日時：令和６年２月１９日　１０時～１２時
出席者：別紙のとおり

（鈴木）
　それでは時間になりましたので，第３回八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定推進協議会を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席頂きまして，誠にありがとうございます。
　本協議会は八千代市審議会等の会議の公開に関する要領の規定に基づき，会議を公開するとともに，会議録作成のため，会議の状況を録音させていただきますので，あらかじめご了承ください。なお，傍聴希望の方はいらっしゃいませんでした。
　本日ご欠席の委員のご報告をさせていただきます。中澤委員，石神委員，八巻委員，福田委員，五箇委員よりご欠席のご連絡を頂いています。また，中村委員より，少しを遅れるということとを伺っております。
　続きましては配付資料の確認をさせていただきます。資料は，机上に配付しまして席次表と長寿会連合会創立60周年の記念冊子と八千代市地域福祉シンポジウム報告書を事前に配付させていただいています。また，郵送で配布しました資料1，アンケート調査，市民編，自由回答調査報告概要，資料2，また，資料2，アンケート調査団体編自由回答調査報告概要，資料3，令和5年度に庁内各所属で実施した（する予定を含む）地域福祉計画に関する事業取組，資料4，令和5年度地域福祉計画に関わる取組状況に対する取りまとめ表，資料5，進捗状況確認評価表の合計5部になります。事前配付資料も含め資料に不足等あれば申入れていただければと思います。資料の確認は以上となります。
　次に，お手元のマイクの使用方法についてご説明いたします。発言する際はご手元のボタンを押して，赤いランプが光りましたら発言をお願いいたします。別の方がボタン押すと自動で消えます。会長席のマイクのみ常時点灯している形になります。
　最後に，本日の協議内容についてご説明いたします。始めに報告事項として，市民アンケート等について，地域福祉シンポジウムの報告について，議題として，地域福祉計画，活動計画の評価について，今後の方向性について，その他となっております。それではこれより議事に入らせていただきます。山下会長，進行をよろしくお願いいたします。

（山下会長）
　それでは議題に入らせていただきます。報告事項として市民アンケートについて事務局よりお願いします。

（小野主査）
　福祉総合相談課の小野です，私の方から市民アンケートの調査の報告としたいところですが，事前に報告の概要版を送付させていただいておりますので，簡単に説明させていただきます。
　１ページ　第１章　調査概要からご説明します。調査対象は１６歳以上の市民を地区ごとに無作為に３，０００人を抽出し，調査方法は郵送配布をして，回収は郵送回収とWebアンケートでの回収を併用しました。回収票は１，２１２票（回収率４０．４％）前回の中間報告からは，１２票追加となっていますが，前回の中間報告の単純集計と大きな変更はありません。今回の報告は令和元年度のアンケート調査報告書との比較や地区別，年齢別，居住年別など適宜クロス集計となっています。前回単純集計の報告の際に，回答率全体から回答率が少ない地域をみると，地域福祉に興味がないのではないかと思われてしまうのではないかとのご意見を頂きましたので，各地域別の配付数と回収状況を掲載させていただきました。これを見ると「勝田台地域」の回答率が高く，５割を超えている反面，「睦地域」，「村上地域」，「高津・緑が丘地域」，「阿蘇地域」が平均を下回っています。
　回答者属性についてです。３ページをご覧ください。令和元年度と比較するとわずかではありますが，男性の回答率が高くなっています。

問２回答者の年齢については，70 歳代の比率が最も多くなっております。令和元年度調査と比較すると，50 歳代，80 歳代が増加しているのに対し，30 歳代以下の比率が若干下がっている状況です。この増加の部分を見て８０５０問題という言葉が思い浮かび，やはり福祉に関心が強くなる年代なのかと思ってしまいました。
４ページの問 3 の居住地域別の円グラフでは令和元年との養成の比較はほぼ変わりはないのが見て取れます。年齢構成で「大和田地域」，「高津・緑が丘地域」は 80 歳代の比率が 10%程度となっております。
６ページの問 4 の「身近な地域」のイメージの地区別では，市全域で最も多かった日常生活圏域であります，「7 つの地域」との回答が多いですが，新しい住民が多い「大和田地域」，「高津・緑が丘地域」では「小・中学校区」が多いのが分かりました。
７ページ問５の居住年数も令和元年度の調査とほとんど変化は無く２０年以上との回答が６割を超えていました。地区別で見ると，昭和の時代に住宅地として開発した地域や先祖代々そこの住民となっていたであろう，「睦地域」，「阿蘇地域」，「勝田台地域」が「30 年以上」との回答が多い反面，5 年未満の居住年数となっている地域は，近年住宅地として開発している「高津・緑が丘地域」となっております。また，８ページの年齢別に見ますと，高齢になるほど居住年数が長く，30 年以上の居住年数が 50%を超える比率は 65 歳以上となっています。
９ページ問 6 の世帯構成は，令和元年調査と比較すると，わずかではありますが「単身世帯」の比率が高まっております。１１ページ年齢別の世帯構成をみると２世代世帯が５割近くいるが，65 歳以上の「ひとり世帯」の比率がやはり高いなと感じました。
１２ページ問 7 の家族の状況については，令和元年度と比較すると，「該当しない」との回答が約８ポイント増加しています。また，65 歳以上の方との同居は減少しているものの，病気や障害のある方との同居が増えているのが伺えます。
１４ページ問９の情報を得るうえでの情報元を年齢別にみると，高齢者は「テレビ，ラジオ」，「新聞・広告」の比率が高く，「SNS」については若年層の比率が高くなっています。「他の人から聞く」は年代に関わらず，一定の率で頼りにされていることが伺えます。
外出の状況について１５ページをご覧ください。問 10 の日常生活の中で外出しない方の居住地別にみると，「睦地域」が高い比率を示し１割を占めていました。
１６ページの年齢別をみると，80 歳以上が 1 割以上と高い比率を示しており，１７ページの年齢別の理由として，「身体状況等から外出が困難」との回答が多い中，やはりここは切り離せない課題だと感じました。60 歳未満の人では「外出意欲がわかない」，「外出を必要と感じていない」等が理由となっております。
２０ページの問 12 の外出時の移動手段を居住地域別にみると，「睦地域」，「「阿蘇地域」は，「車やバイクを運転」の比率が高く，反面，「勝田台地域」，「八千代台地域」，「高津・緑が丘地域」は駅が近いからか「自転車/徒歩」の比率が高い状況が伺えます。さらに年齢別に見ると，高齢者ほど「自転車/徒歩」の比率が高いのは免許の返納や事故を懸念してなどが思い浮かび，30 歳未満は通勤通学もあり「公共交通機関」を利用する比率が高くなっていると考えられる。
悩みごとや福祉に関する相談先について２２ページをご覧ください。問 13 の悩みごとや福祉に関する相談先については，「今は困りごとはない」との回答に地域差は見られないが，「睦地域」や「阿蘇地域」では，「困りごとはあるが，相談先がわからない」との回答の比率が高いことが伺えました。
２３ページ，年齢別に見ると，80 歳以上では困りごとはあるものの，必要なサポートが受けられている比率が 3 割となっており，1 割の人は相談先がわからないことや，困り事があるとの回答が，２０代から６０代が比較的多いことも確認できました。
２４ページの問 14 の相談先について年齢別に見ると，いずれの世代でも「家族，親戚」との比率が高いものの，20 歳未満になると，「友人・知人」の比率が 5 割を超えていることがわかりました。
２５ページの困りごとの状況から，問 13 の困りごとがあるが相談先がわからない人で，特徴的なことは「人へ相談することはない」との回答が約２割弱を占めており，相談先がわからない人への支援などの対策が必要であることがわかりました。
２６ページの問 15 の相談先の認知度については，概ね令和元年調査からは増加しているもの

の，「地域包括支援センター」においては，9.2 ポイント大きく減少しておりました。また，年齢別に見ると，20 歳未満においてはいずれの施設においても低い傾向が見られました。
また，問 13 の困りごとがあるが相談先がわからない人は，全体的に施設認知度が低くなっており，特に「地域包括支援センター」，「子ども相談センター」，「福祉総合相談課」などでは「必要なサポートを受けられている」人との差が大きいことがわかりました。
身近な人との関わりについてです。
３２ページ問 16 の身近な人とのつきあい方について年齢別に見ると，「いつでも気軽に頼みごとをしたり，相談できる人がいる」の割合は 10 歳代が最も高く，加齢とともに低下する傾向があることが確認できました
３３ページ問 17 身近な人との今後のつきあい方の居住地域別で，睦地区の「近所付き合いは極力したくない」の割合が他の地区と比べると多いのが気になりました。
３６ページの問 18「防災，災害に関すること」については，年齢差に関わらず高い傾向だと確認できました。
社会的な課題についてです。
３７ページ問 19 の社会的孤立に対しできることについて令和元年度調査と比較すると，いずれの項目においても比率が低くなっておりました。
４０ページ問 21 の虐待に対しての対応について地域別に見ると，いずれの地区においても「警察に通報する」の比率が高く，「睦地域，「阿蘇地域」は「身近な人に相談する」比率が高い傾向にあることが確認できました。
４３ページの問 22 での困りごとの相談先は，「家族・親族」が最も多いが，「人へ相談することはない」との回答が２割を超えており，自分の困りごとを他人に話すことに抵抗がある感じが取れることから，相談先に関する対策が必要であると感じました。
福祉で関心があることについてです。
４６ページから４８ページ問 23 の福祉で関心があるものは，自身や家族に関する部分が表されているのが確認できました。「災害発生時における助け合い活動に関すること」については，13 ポイント低下したが，今は，能登の地震があったことで関心が出てきていると思うので，アンケートを実施したタイミングにも左右される点はあると思いました。
成年後見制度についてです。
５０ページ問 24 の成年後見制度の認知度について居住地別に見ると，「睦地域」，「阿蘇地域」の認知度が低く「まったく知らない」の比率が約 3 割を占めており，周知をしていく必要があると思いました。
５２ページ財産を任せたい人では，後見を利用する，しない共に家族・親族の比率が高い，私もですが，家族・親族が居ればやはりそこに頼ると思いました。
ボランティアや地域活動についてです。５３ページ問 26 のボランティア活動や地域活動への興味を居住地域別に見ると，「睦地域」，「阿蘇地域」では活動への興味が低い傾向にあり，５４ページの年齢別に見ると若い世代の比率が高いことが確認できました。
５７ページ参加できない理由について地域別に見ると，「阿蘇地域」では「仕事などで忙しく，時間がない」との比率が高く，「八千代台地域」，「高津・緑が丘地域」，「大和田地域」では「活動内容や参加する方法がわかわない」との比率が高い傾向にありました。また，「睦地域」では，「体調がすぐれない」との比率が高いことが確認できました。
災害発生時における助け合い活動についてです。６３ページ問 27 の地域防災活動の参加について居住地域別見ると，「勝田台地域」は最も高く，「睦地域」が最も低い状況が確認できました。「睦地域」では，「防災活動は実施されていない」の比率も 1 割以上を占めており，このことが一要因であると想定されます。
地域福祉についてです。６８ページ問 29 地域福祉の必要性について令和元年度調査と比較すると，地域福祉の必要性については「とても必要，ある程度必要」との肯定的な態度が 9 割以上を占め変わりませんが，「とても必要」の比率のみを見ると，15 ポイント低下していることが確認できました。
７２ページ問 30 の身近な人に手助けしてみたいことについて居住地域別で見ると，「睦地域」，「阿蘇地域」では，各項目で低めの比率を示しており，その他の地域では同様の水準であることが確認できました。

続きまして関係団体等につきまして，社会福祉協議会から説明していただければと思います。よろしくお願いします。

（槌田）
社会福祉協議会企画管理課の槌田と申します。私から，団体アンケートの調査報告概要について報告させていただきます。関係団体アンケートの調査報告ですが，前回の協議会のときにも，報告させていただきました。そのときの結果からは，表へ追加ということで大幅な変更等はございません。
資料2をご覧ください。回答者の属性につきましては，団体の会員，従業員数の規模としては10人から30人未満が最も多く3割以上を占めております。次いで10人未満という形になっております。
活動の地域については，市全域が対象となっている団体が最も多くなっており，睦地域，村上地域を活動としている団体は少ないという状況は確認できました。
また問6の地域共生社会の実現に向けた地域共生社会，包括的な相談支援の仕組みを充実する上で優先的に取り組むべきことはどのようなことだと思いますかという質問に対しては，相談者から見てどこに相談したらよいかというのを明確にすること，または交通についての意見が多く見られました。
問9の地域の課題や不足している。と思うことについてとしましては，道路の整備等のハード面について，または地域の中で集まれる場所，子どもが遊べる場が少ない等のご意見，また災害時の対応についての意見が多く見られました。
問10の活動事業上の困り事や課題についてですが，こちらも送っている団体のほうが福祉事業所またはボランティアグループ市民活動団体となっておりまして，意見の幅がありますが，人材不足や情報発信についての課題を挙げられていることが確認できました。
また5番からの自由記述意見についても，情報の発信，また人材不足，相談体制の充実等の意見が多く見られております。
前回の報告内容とほぼ変わりはないですが，送付している団体が，市内の福祉施設から，実際に地域の中でボランティア活動をしている団体と，活動内容に幅がありまして，また従業員，としての立場，実際に地域の中に入って活動している者としての立場などの立場の違いから，また各地域について考えている内容，視点等が異なるかと思っておりますので，この点については，今後コンサルのほうに，回答者，事業所がどう思っているのかまた，実際に地域で活動しているボランティア活動している方から見て地域をどうとらえているのかというのを，団体別で調査の集計を行い，後日報告させていただければと思います。以上になります。

（藤村主査補）
福祉総合相談課の藤村と申します。私からは資料3の令和5年度に庁内各所属で実施した実施予定も含めました地域福祉計画に関する事業取組のA3サイズのものになります。それと資料4令和5年度地域福祉計画に係る取組状況に対する取りまとめ表について説明させていただきます。お手元にない方いらっしゃいますでしょうか。では，庁内の取組状況につきましては，昨年と同様に庁内全ての部署にメールで送らせていただきまして，回答を頂いたものになります。昨年度の反省を生かして，担当者レベルでなくきちんと所属長に確認をして，より正確に取組状況を把握したものを反映したものになっております。修正点があるかもしれないので，それに関してもしお気づきの点がございましたら，協議会終了後に教えていただけると助かります。資料4につきましては，資料3の各部署からの報告事項を取りまとめたものと思っていただければいいと思います。それをもとにこちらでそれぞれ課題や取組をどうしたらいいのかということをまとめた資料になっております。こちらは市，地域福祉計画に当たる部分になりますので，地域福祉計画の緑色の冊子に記載されている市の取組というものに対してどの程度できていたか，充足されたかを確認した上で，課題点，行政側の視点を抽出しています。
昨年度，事務局側で進捗状況の評価を行っていたのですが，それは行政目線の一方的な評価で片手落ちですというご指摘がございまして，今回は急遽皆様にご足労かけてしまったのですが，事前にこの協議会の前に皆様のもとにお送りさせてもらったかと思うのですが，アンケートや皆様のご意見をしっかりいただき，行政目線だけではなく皆様のご意見をきちんと各課に

フィードバックして，行政と皆様とのずれを把握した上で協議を図っていく土台づくりのために，非常に大変だったと思うのですが，ご協力頂いて後ほど，ご意見を頂こうかと思っております。

資料4の取りまとめ表を説明させていただければと思っているのですが，我々としましてはいろいろな課題があるのですが，この19の施策を一気に同時進行というよりはキーワードとして，力を入れていくところとして，場所移動，権利擁護，情報共有ネットワーク。こちらをキーワードにして取組を進めていこうかと考えている状況です。一つずつ説明をしていきますので，一緒に資料をめくりながら見ていただければと思います。

まず，資料4の施策の方向性です。地域における居場所づくりの増進についてですけれども，市の取組としましては，様々な部署で様々な居場所をつくっていたり，活動していたりしています。一方で横断的な利用が図れないといった部分や，どこでやっているのかよく分からないといった，後ほどの情報のところにもつながってくるのですが，情報が十分に伝わらないといった課題もあります。お手元に配らせていただいてオレンジ色の冊子のいきいき健康マップは介護保険の事業の一環で作成した高齢者向けの社会資源マップになっております。ゆっくり見ていただければと思うのですが，またこれとは別に社会福祉協議会ですと，八千代市ボランティア市民活動推進センターでも，別の社会資源を把握しているといった形になっております。居場所づくり活動づくりといった部分は，社会福祉協議会と関係部局とも連携しながら，既存の社会資源をどうやってうまく生かすかというところに課題があり，取り組んでいく必要があると認識しております。

続きまして施策の方向性7です。日常生活における行動手段の工夫と体制の整備についてです。これは第1期策定当時から移動の問題として，ずっと上がっていました。その中で，あえて施策の方向性を移動と区切るのではなく，行動手段の工夫とした経緯としては，市民の生活が豊かになるためには，自分が移動するだけではなく，移動が難しくても生活が豊かにできる方法もあわせて考えたほうが良いだろうということだった思います。そうした中で市としましては，スーパーと協定を結んで，令和3年から移動販売を始めたりしております。ただこの移動販売も地域包括と社協また長寿会様にもご協力を頂いておりまして，どの地域にニーズがあるか確認しながら進めております。一方で，前回の協議会でご意見を頂いた巡回バスやスローモビリティーといった市が行うハード面の整備といったこともありますが，ぐるっと号も，かなりの期間，部局で検証した上で八千代台の1路線を残して廃止された経緯があります。八千代市の根本的な道路状況，道が狭かったり，坂道が多かったり，主要道路は渋滞しているといった部分を抜本的に変えていくのは，時間もお金も非常にかかるという状況から現実性がというところがあるのですが，ほかの自治体では，近所の中で容易に相乗りできる仕組みを作ったり，施設が所有している車を送迎時間以外に活用するといった，ハードでなくソフトの面で解決を図っているところも増えてきております。いわゆる昔だと白タク行為と言われてしまうのですが，ガソリン代と手間賃までならオーケーといった具体に緩和されてきて，そういった仕組みを市としても作っていくことが大切だと考えております。課題に対しては，きちんと共有して意見を出し合いながら，できるところが解決を図っていくという姿勢が重要だと認識しております。移動支援の問題につきましては，当課でやっている介護保険の枠組みの中でも話が出ておりますので，来年度に高齢者部門以外の分野も交えてお話ができればと思っておりますので，また皆様にもご意見頂ければと思っております。

続きまして，施策の方向性8権利擁護です。これまでの協議会でも報告しており，市で体制整備を進めており，成年後見に関する業務は市社協に委託して行っていたのですが，4月からは，権利擁護連携支援センターという形で委託をして，権利擁護全般についての仕組みをしっかり作っていこうという方向になっております。これが取りまとめ表に載っている1番下に書いてあります中核機関という表現になっている部分を指しております。認知症の方や障害があって判断能力が十分でない方がいた場合，消費者被害もそうですが，自分で気づくのは難しいです。一方で市民アンケートでも，成年後見制度認知度は実際にはほとんど上がっていません。全国的にも同じような状況ですので，市民全員に知ってもらうというのはすぐに達成するのは難しい状況です。となってきますと，そういった場合大切なのは，近くにいる人が気づくことです。気づいた人が支援できるところにつなげるといった仕組みやラインをつくることが，大切だと考えておりますので，このセンターが設置された後は，まずは委員の皆様のよう

なアンテナが高い，民生委員様や福祉団体といったところから，周知を進めていければと思っておりますので，ご協力をよろしくお願いいたします。
次に，施策の方向性 14 です。情報のバリアフリーの推進となります。これまでも，各委員様のほうから事例を出していただき，アンケートの意見でも上がってきたのですが，情報が必要な人に届いていないという部分があります。関係者でも情報を共有できていないといった問題があります。近年 AI の進歩やネットワークなど様々な進歩はあるのですが，それを使いこなせる方ばかりではないし，行政だけでこれ発信をして必要な人に届け切るというのも，現実問題，なかなか難しいという状況です。例えばですが，給付金が始まると，外国の方は，コミュニティーの口コミで何かやっているよと聞いて窓口に来られたりします。皆様の中の力も含めて情報を知ってもらう点において，市の役割や，市がここまでやるといいよって話だとか，一方で，地域の方の助け合い支え合いの中で，どんなことができそうかというところで，アイデアを含めてご意見を頂けると助かります。
最後になりますが，方向性 19 です。多機関協働による包括的支援ネットワークづくりの増進になります。この地域福祉計画・地域福祉活動計画というのはまさにこのネットワークづくりがポイントだと思っております。昨年度，この協議会とは別に交流会をやって，一部の委員さんにも参加していただきましたが，その交流会をやっていただいたときに，皆様，本当に様々な，多岐にわたる活動をやっていらっしゃっているのですが，それを一元的に把握している人はいないという状況です。私も個人的なシンポジウムに参加し，こんな取組をやっているのだとそこで初めて知った活動もありました。こういった状況を改善していくには，一つとしては事務局がこういうことやっているよという場を共有する場所をほとんど設けてないということも，原因の一つかと思っておりますので，来年度は自分の活動やっていることを知ってもらう，ほかの委員さんの活動やっていることを知る機会を設けなければならないかなと思っております。やり方はこういう何か協議会とかオフィシャルというやり方だけではなく，様々な方法があろうかと思いますので，検討してまいります。
この地域福祉計画は福祉の上位計画という位置づけで，各分野の計画の中で共通する課題や横断的事項，どこでも拾えないような施策の方向性をまとめております。ほかの計画との整合性を図っているのですが，やはりその計画全体の話し合いを関わってくる全部の部局と，話し合いというところはまだ不十分ですので，来年度はそういった計画の担当者が一堂に集まれる機会をつくってみてもいいのかなとこちらとしては考えております。今後市としても，前にも説明した重層的支援体制整備事業という形で多機関協働を図っていきたいと思っております。ご意見があれば頂きたいと思っております。市の取組に関する報告は以上となります。

（山下）
事務局に説明を頂きましたが，後ほどまた各委員にご質問ご意見頂く機会をつくることとして，続きまして地域福祉シンポジウムの報告について社会福祉協議会から説明をお願いします。

（槌田）
社会福祉協議会の槌田と申します。皆様にお配りしました令和 5 年度八千代市地域福祉シンポジウム報告書をご覧ください。地域福祉シンポジウムですが，1 月 20 日土曜日の 10 時から 12 時で，市民会館小ホールで行いました。
開催の目的としては，地域共生社会の実現に向け，地域の中で支え手，受け手世代，分野といった垣根を超えた支え合いの機運を醸成し，今後の課題や活動におけるポイントについて考えるとともに，現在策定している地域福祉計画及び地域福祉活動計画の理解啓発を目的に行いました。
シンポジウムのテーマとしましては，人がつなぐ場所がつなぐ八千代市における地域福祉活動の実践といたしまして，前半，基調講演として，山下先生にお願いし，地域の担い手を増やすには，地域と事業者の連携についてテーマに基調講演をしていただきました。後半ですが，パネルディスカッションを行いまして，八千代市における福祉，地域福祉活動をテーマにして，4 人の方にご登壇を頂きまして，山下先生にコーディネーターをお願いいたしました。
登壇者としましては，ひまわりクリニックの医師である中村明澄先生からは，医療と福祉の

関係，制度外のインフォーマルな支援のところと実際の患者さんの事例をもとにお話を頂きました。
お話の中で，誰かの助けが必要なときに，声を上げれば誰かが手を差し伸べてくれる，助けてくれる方がいる，その声に気づける地域の担い手作りが大切というものを感じました。
2人目の弓削田キク子さんは，村上地区の民生委員児童委員協議会で会長を務めておられます。弓削田さんからは，中村先生がお話ししました事例のご家庭ボランティアとして支援しておりまして，支援のときのお話やボランティア活動の心構えについてお話をいただきました。また，弓削田さんが行っているほっこり村上という居場所づくり活動についてお話を頂きました。弓削田さんのお話の中から，ボランティアはしている側も楽しむことが初めの一歩，勇気を出して何か参加してほしいという，メッセージがとても印象的でした。
3人目，小野美香さんですが，社会福祉協議会が行っている福祉教育出前講座で，実際に車椅子ユーザーの当事者として，講師を務めておられております。小野さんからは，実際に自分自身，地域とつながりを持ったきっかけから，福祉教育でのサポーター講師としての活動など，支援を受ける側だけではなくて支える側としての活動について，お話を頂きました。小野さんからは，障害があることでできなかったこともあったけれども，地域に出たことで，いろいろな人とつながりを持って，当事者として子どもたちはこれから先，障害に対する考えを変えていきたいという言葉が印象的でした。
4人目は佐藤千尋先生です。慶應義塾大学大学院のメディアデザイン研究科のほうで講師をしている方で，まず佐藤先生からも，この八千代市とつながりを持ったきっかけ，活動を始めたきっかけをお話頂きまして，実際に八千代市の米本団地のほっこり米本での活動や市民ギャラリーでのアート活動などの地域とのつながり，また新たな担い手についてのお話を頂きました。地域の方と学生，福祉などのつながりができたことで，新たな魅力を地域の魅力を発見や緩やかなつながりを持つことの大事さを大学の先生の知見の視点からお話を頂きました。
実際に来場された方は，115名になります。次の2番のアンケート結果に移らせていただきます。来場された方ですが，50代以上の方が多く，特に70代の方が，多かったです。アンケートの結果から，基調講演パネルディスカッションともによかったという意見がとても多く，感想，意見としては，何か活動を始めてみたいと思った，また情報を知りたいなどの意見を多く頂きました。頂いた意見，感想等は報告書に，箇条書きですが，記載しておりますので，時間あるときにご覧頂ければと思っております。
今回のシンポジウムで，人そして居場所とのつながりをテーマにいたしましたが，地域のつながりや人とのつながりが希薄化している現在，つながりをどう持てばいいのか，課題として感じている方が多いかと思います。山下先生そしてパネリストの4人のお話から，それぞれパネリストの4人の方の所属や活動されている内容は異なるものですが，つながり方やつながる目的は人それぞれですが，つながれたことで，いい方向で変化や影響があったということを実際の活動事例から多く学ぶことができたシンポジウムになったと思っております。地域福祉シンポジウムについての報告は以上になりますが，ご登壇されました山下先生，中村委員から補足など等ありましたらお願いいたします。

（山下）
補足なさそうなので，先に進みます。議題の1番の地域福祉計画・活動計画の評価について事務局から，お願いします。

（小野）
ここで頂くご意見といたしましては，市や社会福祉協議会の取組，また地域の活動団体の中や市民の取り組んでいる，そういった視点から評価できる方法だと思っておりますので，皆様の考えていること評価していただくということで，こちらの様式についてはこれから皆様に行っていただき，今現在で構いませんので，各委員さんから講評を頂きまして，皆様のいろんなご意見を伺った上で，議論ということでさせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（山下）

これ少し補足しますと，今から話し合う評価というものと2分ぐらいご発言をとあらかじめお願いしているこのやり方を含めて，この地域福祉計画が日本の法律で登場したのが2000年で，2000年のときに市町村では任意で，作っても作らなくてもいいって言い方失礼なのですけどそういうような感じでつくられているのですが，大事だから注目してしっかり作りましょうと数年前の法改正で努力義務になりまして，努力義務というと自治体的にはもうほぼ作んなきゃいけないっていう気持ちになってくるってイメージで，特に市レベルはもう作ってないと駄目でしょう。

そんな雰囲気で自治体を捉えるといった，ほかの行政計画は数値目標とか，達成度といったものがある程度分かりやすい，予算と事業が連動する形で，それも状況担当の方法とか比較の積み上げがあるのですが，この地域福祉計画の評価は，地域福祉の学者の間でもまだそれでベストなものがこれだっていうことが作られていないのと，自治体は自治体で限られた本当に微々たる予算の中で，どうやって評価していけばいいかって悩んでいるところです。今日皆さんからご意見頂く内容が全て的外れとかそういうことは関係なく，今後の地域福祉行政のことで役立つので，先ほどのシンポジウムとか，その前のアンケート調査に関する質問なども含めて，あと先ほどご提案，ご提示頂いた，居場所と行動手段と権利擁護とバリアフリーとネットワークっていう地域福祉計画上の，方向性の2番7番8番14番19番以外のことでも，何でもとにかくいいですので，ご発言を頂くというところから始めようと思います。本当であれば，3～4時間かかってしまうところですが，残りの12時までの時間1時間10分弱ございますので，まず各委員から感想というか，ご意見頂くところからやろうかと思いますので，60周年のチラシ冊子のご説明もしたいと伺っているのでちょっと今気持ちを切替えインターバルとし，まず，資料の配付をお願いします。

（渡部）

皆様にお配りをさせていただきました。ピンクの冊子をご覧頂ければと思います。
八千代市長寿会連合会の会長している渡部です。説明する時間を頂いてありがとうございます。まず八千代市長寿会連合会はおかげさまでこの2月が創立60周年となります。昭和38年に老人福祉法ができまして，その翌年に八千代市に長寿会連合会が誕生したということでございまして，それで，記念紙をつくろうと思いまして，私は，やはり60年間の歩みを振り返って云々というよりも，これからの60年，これから60年先を考えても世の中にいないわけですが，少なくとも八千代市に高齢者が5万人いて，その中でひとり暮らしが1万人いて，そして今でもこの話している間にも胸を押さえて苦しんで助けを求めている人がいるかもしれない。高齢者の八千代市に現在住んでいる1万人のひとり暮らし，5万人の高齢者，こういう人たちに向けて冊子を作ろうよということで，あえて，このようなものを長寿会や長寿会連合会にも，元電通のデザイン部勤めていた会員もいるものですから，必ず相談をして，このような冊子を作らせていただきました。

表紙のピンクの八千代市にお住まいの皆様へと60をいっぱい書いています。それで，この内容は見ていただければ分かるので説明しませんが，6ページから7ページ8ページ9ページまでは，地図をちょっとそのまま載っけると著作権に触れるので，あえてマップでつくりましてそのマップの中に，阿蘇地区ならこういう長寿会，老人クラブがありますよ。

そして，10ページからは42ある老人クラブの名前を縦軸に入れて，横軸にはどんな活動をやっているのかということで表にしました。そして最後に，いろんな活動状況の写真を入れて，中村先生も来られていますけども，在宅医療の講座などいろいろなことをやっているのも長寿会ですよということで，最後の15ページには，緊急通報システムについて載せました。1万人のひとり暮らしの方がおり，その中で1100台ぐらいこの緊急通報システムが入っています。知らない方も多いので，あえて最後のページ載せていただき，そこには地域包括支援センターの所在地も全部載せました。4月からAI機能で相談機能がこの緊急通報システムにつくというので，非常に期待している最中でございます。

鎌ヶ谷で，ひとり暮らしの80代の女性が1月に息子と弁護士を騙る人から何回も電話があって，そして最終的に1150万の特殊詐欺の被害に遭われました。そして，指定の運送屋さんが行きますからその人にお金を渡してくださいと言って渡しました。これは新聞に載っています。恐らく，相談相手がいないのです。先ほども槌田さんや小野さんの発表ありましたけど，本当

にひとり暮らしの相談相手がいない，こういう人に差し伸べるべく長寿会があるべきだということで，このような冊子を作りました。よろしくお願いします。

（山下）
ありがとうございました。長寿会は支援の一つでもあり，市民アドバイスセンターという高齢者の方々が中心に担っている団体でも，こうした情報提供とか，その活動へのお誘いというものがこの 60 周年記念の区切りという，さらに将来に向かって，メッセージを情報提供されようとするというのはすごいいい冊子だなと思っております。これ何部ぐらい作ったのですか。

（渡部）
1 万部つくりました。いろいろな協議会の会員だけなら 2250 部で済むのですが，これを長寿会に配ってもみんな分かっていることですから，あえて 5 万部つくってもいいのですが，お金も大変なのです。1 万部つくってこれ 1 冊 18 円です。この冊子のおかげで，こういう例がありました。娘さんから電話がかかってきて，この冊子を見ましたと，長寿会ってこういうことやってらっしゃるのですかと，うちの父親に勧めますから，ぜひ，どこの地区に入ればいいんでしょうかと，そうすると 10 ページを見てくださいとなるわけです。さっきのアンケート結果やシンポジウム報告書の 4 ページを見ると，シンポジウムの報告書が箇条書きで書いていますが，4 ページの下から何番目かに八千代市の福祉やボランティア活動は高齢者向けがイメージであった。地元の福祉活動サークルは高齢者が多く，カラオケが趣味の高齢者が多く，長寿会はカラオケなどをやっているイメージで，正直余りよい印象ではなく，もっと将来のある子どもへ向けるべきだと怒りを感じている部分もありましたが，真っ当な活動がきちんと行われていることがわかり有意義な経験を得られましたということだと。シンポジウムは用事があって行けなかったのですが，高齢者，長寿会に対するイメージはこんなもんだのだろうなと。カラオケとかまっとうなとか，だから私はあえて冊子をつくって本当によかったなと思ったのです。私もカラオケ好きですけどね。やっぱりこういうことが大事なのだろうなと思って，逆にこの文章を見てよかったと思っています。以上です。はい，ありがとうございました。

（山下）
吉野委員から意見をお願いします。

（吉野）
拝見させていただいて，これだけまとめるのは大変だったなあと思ったのと，ちゃんと修正点が，修正されているっていうのと，これから評価に入ってくると思いますけれど，これを踏まえて，評価をするだけじゃなくって，要望があるものに関してはこの場所と会議とかネットワークとか情報の共有とか権利擁護に関して，どうやったらやっていけるかなっていう視点での評価じゃないと，やれない理由を羅列するだけでは何も前には進まないので，私たちの責務って重いなって，どうやったらここに書かれている重点を，やっていけるかなっていう点では３月１日までと書いてあったので，そこまでの間にできるだろうかという，はらはらしていますけれど，でも，いろいろばらばらにある施策であったり，団体であったり活動だったりが地域っていう八千代市っていうその一つの地域を小単位行政区域の中で，これが，担い手が少なくなってくるので，どんどん必要になってくるかと思います。それで福祉の分野でも重層的支援や拠点事業など少し福祉の分野から外れたものも組み込んでやっていきましょうという施策が出てきているので，これらの連携が，児童福祉の分野からも必要になってくるのではないかと思って，他人事ではないですが，大変そうだと思いました。それをやっている市にしていただいて本当にありがたいと思っています。

（山下）
ありがとうございました。お忙しいので 2 分の準備をされてきた方としてきたのだけれども発言させられるとやだなんて思う人いるような気がするのですけど，準備された方いますか。一緒にやってみましょう。

私が進行していいですか，例えばなんですけれども，この例の資料1の分厚いアンケート調査をご覧頂きまして，まず，7ページに，居住年数という（5）が上のほうにございまして，八千代市のいわゆるお住まいの年数なのですけど地域福祉計画は，行政の役割も重要なのですけど，地域福祉っていうのは，住民が，登場してこないと成り立たない計画なので，いわゆるここに一つ住民の情報があるわけですけど，居住年数で30年以上，そして20年以上も合わせると全体の6割なので，6割の方はそれなりの愛着というか，もうここに住み続ける，ここで亡くなるというか，最後まで八千代市でといったこういう，地域性があると思います。

全国的にも似たような感じになるのかもしれませんけど，都市部だともうちょっと数値が下がるような気もしますけど，これは令和元年度，調査と比較しても関係がなかったという居住年数が，まず7ページで6ページに遡って，めくってくださいますと，地域福祉計画における地域の圏域っていう地域は一体どこなのだっていうこれが問いなのですけど，市全体だっていうお答えをされている方が2割ぐらいの幅にあり，そして八千代市が定めた地域の方もそういう圏域だと理解されているその大和田，高津，八千代台といった7つの圏域だっていった方が，5割ぐらいになっていて，小中学校区ってこれは小中学校の区域っていうところで活動が展開されているよりは，どっちかというと歩ける範囲の限界というところなのでしょうけど，小中学校区でそのあとに支会が出てくるっていう，こうした地域といったものを意識しているっていうことなのです。睦・阿蘇地区だと8割の方が，住み続けてらっしゃる先の居住年数で，高津・緑が丘地区になると，10年未満という暮らしぶりの方が3割ぐらいといった，この地域差が出ている中で，地域福祉計画っていうのは，八千代市全体で立てるのだけど，各地区地域でいろいろな展開の差が必要なのだっていうのが明らかになってきたみたいなのが，この数値で言えることで，地域福祉計画，今回初めて立てて，次，改正内容自体は大幅に改正しないけれども，次の展開をするにあたって，住民が考えている地域性といったものについて，皆さん何かお感じのことがあれば，特になければ別にですけど，みたいな話を一つ一つしていくって言ったことに，なろうかと思います。

これはそうでしょうで終わるので先ほどの渡部委員からおっしゃった，5万人高齢者がいて，ひとり暮らしの方がうち1万人いらっしゃるっていう，そのことについて，どう考えるかって言いました。そういうことの議論ができるのだろうと思います。

次が世帯構成なのですけれど，家族のサイズが9ページのところで，調査があって，読み解き方なのですけど，ひとり暮らしが増加しますと言いつつ，ひとり暮らしの割合っていったものをこの横の棒グラフで，大体10%ぐらいになっているこの数値をどう見るかなんですけど，阿蘇地域だと22.2%となっているので，ここかなり高位になっていますが，これただ棒グラフで全体を見て，真ん中のところに縦棒を5割のとこまで引くと，夫婦世帯っていうので約半分にたどり着こうか，ちょっと超えているかって地域がほぼあるので，これは高齢者夫婦世帯だとすると，中長期的に見るとひとり暮らし世帯になるので，この次の期間の3年間ではさほどデータは変わらないけど，これ10年後を見ると，この後，1人世帯というのがぐっと増えるだろうと思います。それを意識しながら地域福祉計画を各省庁と横断しながら何を準備していくのかっていうその1年で変わるようなことの取組じゃないので，かなり中長期的な計画として見ていかなきゃいけないということが，明らかになってくるっていう，そうした見方があるだろうと，などそんな感じなのです。皆様が今お暮らしになっていて，考えられたことなどが，ご意見として頂けると面白いかなあと思います。

次が最後ですけど，相談ですね，地域で生活して相談というのが22ページぐらいご覧頂きますと，これも面白い調査というか興味深い調査になりましたけど，22ページから困っている状況があるかないかどんな状況かっていうことで，データ的に言うと17.7%の方に困り事があり，困り事があるのだけど相談先が分からないとおっしゃっているので，2割弱の方が何らかの困り事があるっていう，それで相談先がない方っていうデータもあるっていうここが次の計画の見どころで，先ほどの長寿会みたいな，何かあったら活動ができて相談もできるって資源を相談のために受け付ける資源ってよりも，活動の場を用意しながら，そこでも相談ができるというふうにしていくみたいな，そういうふうにするとかなり幅広い広がりになるし，次の23ページ辺りで，サポートの実際についてデータが出ているわけですけれども，先にさらに進んで，42ページ，結局その困り事がある人が一体何に困っているかと知りたくなるじゃないですか。その困り事と生きづらさがくっついているかちょっと分からないのですけど，データをし

っかり見てないのですけど。
どうやらその 42 ページの周辺を見ると，45 ページまで見ると，障害，病気，困窮，孤立，辺りで生きづらさっていうのが感じられているので，それに関連することと困りごと一致しているのかまた別なのか，ちょっと分からないのですけどね，そういった状況が一定数，この地域福祉計画の推進とその調査によって，八千代市の方々の状況が見えてきたので，これを地域福祉計画の中で，独自に，または周辺の計画や周辺の下の取組として，どうやって結びつけていくのかっていう，そんな話がこのアンケートから見えました。
最後なのですけど，皆さんと意見交換をしたいので，問 29 の 68 ページで，地域住民の支え合いや助け合いの必要性についてどういうふうに思いますかっていうことで，とても必要だと思うとある程度必要だと思うというので 9 割ぐらいになっているので，安心かなあと思って読んでいたら，3 行目で，とても必要という比率は 35.1％で，元年度調査から 15 ポイント低下しているっていう点をどう捉えるかとい点です。八千代市の地域福祉計画では，福祉文化っていうのを育てましょうっていうのも，基本目標の 1 に入れてもらって，長く暮らしながら，八千代市の生活は福祉っていう文化があるよみたいな感じで，中長期的な視点で取り入れているのですが，必要性について少し市民が，こう捉えているというのが一体どういうところから来ているのかちょっと皆さんに聞きたいと思います。ボランティアの運営やボランティアの視点から犬塚さん，このことに限らずなにかお考えのこととかあったら，口火切っていただいていいですか。

（犬塚）
ボランティアセンターの代表をしている犬塚と申します。私自身，ボランティアは，週 1 回，介護予防サロンというのをやっております。それから体操を毎朝公園で，6 時半に月曜日から金曜日まで仲間と一緒にやっていて，そこの公園には寒いときでも 50 人ぐらいの近隣の方々が集まってきます。だから自分の都合で休めません。それから今は高津支会の会長をやっております。それと，代表しているボランティアの回想法というものがあり，千葉県では 10 年前，回想法というのが全くなかったのですね。社会福祉協議会の予算をつけていただけて，神奈川から先生をお呼びして，回想法というボランティアグループを作りましたが，なかなか，継続が難しい状態なのですけれども，今月 15 名ぐらいの高齢の方たちが参加してくださって，回想法を実践しております。私が 1 番感じているのは，まず支会が皆さん全然ご存じなくて，私は自分の会長の間に支会を地域の方に認知していただきたいなというのが 1 番の目的で支会だよりを発行しております。
特にコロナで活動ができなかったので，その間にも支会だよりを出して，小中学校から高等学校の福祉教育のお手伝いが多いのですけれども，そういうことを写真に撮って，支会だよりに載せております。あと昨日は東高津中学校で防災訓練がありました。
それは東高津中学校の防災組織が主催してくれたのですけれども，東高津中学校の防災と南高津小学校の防災といくつも分かれているようなのですね。
昨日は，東高津中学校を会場にして，南高津小学校の方たちが結構力を入れて，豚汁の炊き出しだやその他もろもろ行われたのですけど，消防署も参加してくれて，日赤さんも参加してくれて，すごくいい催しだったのですけど，人の集まりが残念でした。もう少し大勢参加してくださるかと思ったけど，私はそれを知った時点で，防災部のない自治会にはお知らせしてないと聞いたので，急いで自分の支会に，16 の自治会があるのですけど，その中で全然知らされてないところにお手紙を出して，自分で書類を届けて，こういう催しが近くであるからもったいないからぜひ参加してくださいって声をかけました。昨日の集まりではもう少し参加者が多かったらよかったなと思いました。それから先日の先生のシンポジウムですが，これもすばらしい内容だと思ったのですが，やっぱりもう 100 人ぐらいしか参加がなくて，これもすごくもったいなかったなと思うのです，もう少し何か。集客というか，ボランティアの何か催しがあって，参加者を増やすことがもう少しできたらいいなと思いました。

（山下）
はいありがとうございました。
まず重要な事項として支会の認知度といったものがこの計画上の評価でどういうふうに取り

上げるべきか。地域福祉計画上は７つの圏域を打ち出していますが，活動計画では支会を出しているので，両方一体的につくるという上で，市民活動は支会のエリアのほうが活動しやすいということなので，それとボランティア活動の意志が約半数の方が，あると言った２名，年齢でちょっと違いますけど，考察の仕方とこれからの周知の仕方となどが一つであるとか，いろんなプログラムにおいての集まりやその人数といったものが，各イベントなどで課題があるというご発言で，これも計画でも工夫の話なのでしょう。

例えばマルシェがあるとか，何か予定意識付けられるものもあるっていうのも合わせ技でプログラムをしていくって工夫やなどが必要です。相談ブースがあると相談ブースというのはただ真剣な相談じゃなくてちょっと寄って，参加もできるような，その活動に参加もできるという，少し工夫を丁寧に企画することになるのでしょうかね。

（渡部）

全く同感でして，実は昨日阿蘇地区に行ってきたのですけど，上高野長寿会というところが創立 50 周年なのです。その式典ということでふれあいプラザで，いろいろお話をさせてもらいました。60 周年記念冊子も，ただポストに入れないで，ちゃんとクリアファイルに入れて挨拶文を変えて， １軒１軒配ってくださいねと伝えました。
緑が丘長寿会の緑が丘地区も，3800 世帯があるので，全役員でみんなそこに１軒ずつ配ろうと思っています。

マンション管理組合に頼んで，冊子を置かせてくださいと伝えています。悪いものを配っているわけじゃないので，そういうふうにしていかないといけないと思います。そして，高齢者がいなくてもいいのです。そこの家には，うちのおじいちゃんおばあちゃんが阿蘇に住んでいるからちょっと紹介してあげようと言ってくれればいいわけなのです。

我々が回って，報告連絡相談も含めてきちっと１軒１軒回っていってこそ初めて伝わっていくのだろうと思うので，申し訳ないですけれども市がいろんなことをやって広報やちよに載せても，文書を読まない人が多いです。広報や新聞すら取ってない人が多くなってきているじゃないですか。ですからこの冊子もあえて文書をなるべく載せないように写真とか満載にしてくれって言ったのです。

今から約半世紀前は日本の総生産の７割が家族同居ですよ。今，総世帯数の 38％がひとり暮らしです。そんなことがどんどんどんどん進んでいくのですから，我々の福祉の活動というのは本当に大事だけど，気の長い話でもあるのですけども，私は我々がやるべきことはきちっとやっぱりやっていくことだろうというふうに思います。私はそう思って地道ながらも続けていくことだろうと思っています。ありがとうございました。

（山下）

メッセージ性のある行動っていうのをさらに進めていこうということで，ただチラシをポスティングするだけではなくて，メッセージをつけていく。これは被災地とか，支援を拒む人のアウトリーチの際の手法で重要と言われていて，民生委員さんの研修を引き受けるときもよく言いますけど，あなたに会いたいですっていうことを言いましょう，困っていませんかって聞くのではなく，来たくて訪問していますと言いながら関わりをつけ，本当は気配りができればいいのですけど，気配りスキルってなかなか養われないらしくて，一つ一つこう細かく言うしかないなと思っています。ありがとうございました。吉垣委員いかがでしょうか。

（吉垣）

すばらしい冊子ですねこれ，これ表紙の色ですね，私は支会長連合会から来ました。先ほども犬塚委員のほうから，支会への認知度についての発言がありましたが，極端に低いですね。八千代台東に私は住んでいますけれども，東支会でいろいろ行事をやるのですが，これは自治会への行事だろうという方がほとんどなのですね。いつもむなしさを感じてはいるのですが，事あるごとに町会の役員をやっておりますので，その発言はするのですが，皆さん情報発信しても，受け止める方がそれを理解しないで，何もうちは情報発信していませんねと言われます。

やっぱり自分に対して興味あるものはちょっと食いついていくのですけど，全然関係ない事

には何もありません。藤村さんが言っていたように給付がありますよということは，すぐ広まりますね。給付の対象になってない方も，いつもらえるのだろうと。私が話を開くとあなた対象にはなりませんよと。自分の都合のいい情報は受け入れるのですが，自分の関係ないことは全然，ちょっとそれは寂しい思いするのですけども，これが支会としてもそういうことを皆さんと考えていかなくちゃならないのかなと思います。

（山下）
どうもありがとうございました。自治会と支会の関係で，自治会連合会長の粟根さんお願いします。

（粟根）
八千代市自治会連合会の粟根と申します。地域福祉っていうことで，実際に社会福祉協議会の支会や自治会と共同していろんな活動しないといけないのですけども，八千代市は，自治会の加入率が，この 10 年で 10.5％下がっていて，半分の 50.7％なのですね。だから今後，自治会の会員を増やしていかないといけないこともありますし，本当に課題としても思っています。
この間，近隣 7 市の自治組織の代表者会議がありまして，八千代市が幹事だったのですけど，浦安市の自治会加入率が 46％なのです。それが 1 番下で，八千代市が下から 2 番目，だから習志野市とか，船橋市とか，そういったところが高いです。市川市は，自治会を支援する条例ができて，補助金がいっぱいあるのですけど，そういうのも八千代市にないので，八千代市の補助金が 30 万しかないという形なので，実際どこの自治体も，加入率が少ないので，活動ができないと，役員も高齢化して，自治会を解散するところも出てきています。どう，それを増やしていくか。魅力的な自治会というのをアピールしないといけないのですけど，自治会に入るメリットが分からないためにほとんどの人が退会していきます。その中で，松戸市が今取り組んでいるのは，高齢者に向けて，時速 20 キロ未満のバスを推進していて，それはボランティアが運転して，買物に連れていくとか，そういうことをやっています。だから良い活動をしているなというふうに思いました。そういうことが，八千代市でもできれば，盛り上げていきたいと思うのです。だから，今後，社会福祉協議会の支会と連携しながらやらないといけないような事業だなというふうに，改めて思いました。
7 つの圏域ありますけど，そこに，各地区の代表者が役員として副会長として出ているので，それをうまく使わないといけないなと改めて思っています。以上です。

（山下）
はい，ありがとうございました。
この自治会の加入率の低下とこの支会の構成される方の実質的な人数みたいなものとか割合も含めて今後，考察していくことになろうかと思いますけど，魅力的な自治会とか魅力的な支会っていったものをどうやって，イメージをつくっていくのかといった，メリットをどう打ち出すかっていうことなので，それを地域福祉計画や活動計画の中で，具体的に書けないにしても，少しこう意識的に進めていくと，支会や自治会で既に活動されている地域の方が，これは地域福祉において重要だと認知できるし，そしてこれから活動されようとされる方を増やしていこうということが計画に書かれているということで，活動の基盤になると思います。
それをどこの自治会や支会の活動の内部の拡充だけで進めていくのか，今日ここにいろいろな長寿会や民生委員児童委員連合会，自治会の連合会，あと医師会と病気のことは集まりやすいですから，ひとり暮らしとか病気とか災害といったことをテーマに上げていくようなことをしていくと，そのときはまだ困っているぐらいのレベルなので，助けてもらう対象ではまだない人たちにターゲットを置くので，学習会という学び合う機会を展開していくって言ったら，計画性を少し考えていくと，人が集まんないとか同じ人が来るってことにはなると思いますが，ただじわじわ広げていくということが大事です。
そういうときに，病気の話と災害の話とひとり暮らし攻略みたいなのはかなりいいかもしれないですよね。ありがとうございました。
民生委員さんの立場でお感じになっていること含めて保坂さんお願いします。

（保坂）
　私は民生委員児童委員の会長やっております。犬塚さんや吉垣さんと同じように支会もやっていたりしていろいろ地域活動はやっています。やはり二言目にはメリットって何かしらっていうのはもう決めセリフですね。長寿会の話をちょっとこの間偶然した者がいるのですよ。八千代台は全部なくなりました。古くからあった八千代台西の長寿会もなくなりまして，なぜなくなったかというと，会長の成り手がなくて，特に最近なくなった西のほうは，会長の成り手がなくてどうしたかって言ったら，部活動で残っているのです。卓球とかカラオケとか麻雀とか部活動を残した状態で，ただ長寿会の役員の成り手はいないから長寿会は抜ける。場所は，公会堂を持っていますので，そこで使えるからいいのだって言っても部活動だけになっています。それに対して長寿会ってメリットについて，80 歳近い方が言うには，だって自分たちのためだけにやっているのでしょうと言っていて，それで批判的なことを言うのです。
　だけど，以前の西の自治会さんは自分たちの楽しみもやっていましたけども，近所の市民の森の掃除とかを定期的にやっていて，月 1 度やっていました。でもそれなくなっちゃったから，逆に私はそこで体操をやっているのですけども，前は私たちも一緒に月 1 のごみ拾いに行こうかねって言っていた矢先になくなってしまいました。やっぱりメリットがないっていう人の裏には自分本位なるのかなあみたいなもうちょっとそうじゃないってことを伝えていかなきゃいけないなってとても思っています。
　それで，皆さんおっしゃるとおり，いろいろやってもなかなか思ったほど人が集まらない。この間の先生のシンポジウムも，私は伺って，一緒に行こうって言って，周知から開催まで日にちがなかったので，もうちょっと早くパンフレットを頂ければ，みんな行きたかったって言っていました。せっかくのお話であったりしても，人が集まんなかったなっていうのはとても残念だったと思っているのです。
　私は時間があればあちこち顔を出すので，公民館の講習会みたいなの出てみました。そしたら，防災関係の話で，私はいいなと思って帰ってきたのですけど，参加者が 12 人です。それもよくよく聞いたら抽せんをして 12 人だっていうのです。公民館の部屋で，ちょっともったいなくないかなあと思って，これは何だろうってすごく不安に思いました。支会でお祭りをやっていて，公民館が隣接している学校のグラウンドを使っているのですけども，今年の秋にやったお祭りは比較的大勢集まるのです。実は公民館さんにトイレを借りるように毎年していまして，今年は公民館からいろいろクレームつきまして，おっしゃることも分かるのですけども，公民館って何かなって最近すごく思っていて，自分も活動していて居場所がないってことは痛感しています。
　公民館って，ある意味誰もが安心していける場所かなって思ったときに，八千代台の公民館ってもったいないなって思っています。さっきのメリットがない発言ではないのですけども，どうやってこちらからアプローチしてったらいいのか悩みます。言われたまま，そうなのですねだと一歩も進めないし，やっぱりやる側としては少しでも進みたいので，先ほどの長寿会さんのクリアファイルをつけて配るよとか本当にちょっとしたことだと思っているので，そういうのを考えながら活動して，本当に少しでも，皆さんがやろうという気になってもらえることが大事だと思います。
　つながっていかなきゃ生活できないと思うので，コロナのときもみんな家に閉じこもっていて，結果的にはやっぱ寂しかったと思うのです。なので，体操をやっていても，コロナ中も集まっていましたし，やっぱりつながっていたいって言って出てくる方は大勢いらっしゃいますので，居場所づくりをしていきたいと思っていますので，また今後ともいろいろ皆さんの力をかりてやりたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

（山下）
　つながっていかないと生活できないっていうのは，次の計画のどっかにちょっと入れたいですね。

（渡部）
今，保坂さんの話は非常に私も心に刺さりました。八千代台地区は高齢者が 1 万人います。5 万人の中の 1 万人なのですね。私や八千代台の地区長など我々ボランティアです。1 円ももらっていませんけども，地区長にはちょっときつ目に言っているのです。
1 万人いて，長寿会の会員が 250 人です。八千代市だって，長寿会が 7000 人もいたときもありました。クラブ数が 100 幾つあったときもありましたが，今は 42 団体です。会員も 7000 人が今は 3200 人です。50 人増えましたけどね。八千代市で 1 万 2200 人，少なすぎます。私もいろいろ聞いていますが長寿会連合会の会長になって 3 年なのですけども，みんな個人主義でグラウンドゴルフだけやっていればいいのだと，長寿会連合会に会費を払ってやる意味がないと言います。確かに，今まではなかったでしょう。お茶飲みで，おじいちゃん，おばあちゃん，嫁の悪口を言っていました。これからは認知症講座などを開いてくださいと伝えています。この前は東南公共センターで早稲田稲門会の落語家を呼びました。そのときに長寿会の皆さんを集めてくださいと言われたと思います。100 人以上が集まっていっぱいなりました。とにかくこういったことを徹底してやっていかないと，本当にどんどん会員が減る一方で，解散する理由は高齢者がいません，楽しんで入ればいいんです，何でそういう組織に入るのでしょうか。
我々は，会員が離れていかないようにそれを食い止めるためにこういうことをやろうと思っています。よろしくお願いします。

（吉野）
私は児童のことを，たくさんやっています。やっている中で，30 年ぐらい障害児の放課後の活動をやっているのですけれど，その肢体不自由児父母の会という，当事者団体の長でもあります。そこで，資源回収という名前で，アルミ缶や段ボール，古着など要らなくなったものをご近所の方や企業，自治会，学校に呼びかけています。それを 20 年ずっと積み重ねてきていて，1 月には県の表彰式がありました。そのときに，私たちは単に集めるだけなんですね，集めてくださいとお願いするだけなのです。私たちのいる事業所は自治会がありません。けれどもその集めてくださっている方とのつながりの中で，これから 1 人で生活ができなくなって，老人ホームに入るので，うちから好きなものを持っていていいよと言われました。引っ越し業者みたいなことを職員がやっていますけど，それもつながりで老人ホームに入られてからも，ずっとその方たちは自治会の役員もやってらっしゃるし，そういう方たちなのでそのつながりが，私たちにとってはありがたいし，老人ホームに入られてからも，つながっていけるということがありました。今，八千代市の人口は 20 万ですが，人口動態が減りますという計画が出ました。それからもう一つは，児童の減少です。学校の統廃合はもちろん入っていますし，廃校をどうするかという問題があり，子どもを育てている世帯も少なくなります。その方たちが，地域福祉を担っていきます。けれども，前はって言うとおかしいですけど，私がこの活動を始めた頃には子ども会がありました。自治会もありましたが，自治会の抱えられている組織の中に子ども会があったんですけど，自治会が潰れる前に先に子ども会が潰れ始めました。
今はほとんどないですね。子ども会と学童が合わさって 1 年に 1 回で，ビックグリーンアドベンチャーという大きなお祭りが 4 月の下旬にあり，市長さんから，観光バス何台も来ていました。障害児の団体は私たちだけしか出てないんですけれど，子ども会の人数が減っています。そうするとお母様たちも減っているんですね。
子ども会がなぜ面倒くさいかというと，働いて，メリットデメリットだけじゃなくって，始めた頃のように 2 世帯で暮らしてらっしゃる方がとても減って，子どもとお母さんお父さんだけっていう世帯があり，コロナで加速したのが，両方が働かないと家計が成り立たないので役員をやれないということです。
ずっとその悪循環みたいなのが来ていて，それで子ども会がなくなって自治会もだんだん高齢化して，子ども会から自治会に入られる役員は大体そういう流れになってきて PTA も同じですけれど，その流れが途絶えてしまっている感じがします。それで自治会やっていらした方が長寿会に入り，支会は一定の年齢の幅があるので，そこにも入ってらっしゃるんですけど，その人口の減少と生活スタイルの違いがあり，2 世帯がすごく多くなりました。それから，単身世帯の割合も増えました。外国人の割合も増えましたので，情報は発信しても届かないし，単身世帯のほとんどが，生活保護をもらったりして暮らしになってらっしゃるので自治会には，ど

ういうわけか入ったほうがいいのだけど入られません。子どもたちの中での割合が増えてきて，自治会に入って，社会変化による流れの変化みたいなのを物すごく感じます。
　地域福祉計画は，子どもがどんなに少なくなろうが，地域のみんなで支え合いをして楽しく暮らすっていうことであるので，どっかで歯止めをかけないといけないのであれば，どういう歯止めのかけ方ができるだろうなって，楽しいことをやること良いと思います。それから，絶対にこれ言っとかないと困るよねっていうようなことをやるっていう，しかも，任意で義務じゃなくていけるという，その仕掛けを1回2回ぐらいは作り上げていかないと，若いお母さんたちが子どもたちを連れてきません。若いお母さんたちがそこでちょっと役員をやってみないと，この流れのままだと，うまくいかないような気がするので，命に関わる防災訓練や，ボランティアセンターのお祭りなど金品が関わるなどちょっと得するといいと思うので，お母様たちは本当にお金に困っているマルシェのようなものであるとか，そういう仕掛けをまず作っていくことで，横に繋がっていくきっかけを作らないと，地域福祉計画は要望を，達成するためだけの計画になるのは嫌かなと思います。
　移動手段がないから，ぐるっと号を再開してくださいっていうのも必要かもしれないけどそれだけじゃ駄目じゃないですか，本当の地域福祉なんてできないので，移動販売してください，提携しましたっていうだけの問題では済まない計画を立てようとしているわけなので，しかも数値目標は全然要らないので，かえって難しいです。予算の執行もないし，どうやって評価をしていくのでしょうか。朝の夏休みのラジオ体操にたくさん子どもが来るようになったなどが評価になると思います。

（犬塚）
　いいですか。その話で，今朝体操を3人の役員で私含めてやっているのですけど，そこで話が出たのですが，うちの公園は，夏休みの最初の1週間と最後の1週間に子どもたちが参加します。子ども会から1番最後の日にお土産を出すのですが，大きいお菓子が入った袋を30人に渡します。それ以外の期間はお休みの方が多くて，半分ぐらいしか参加しないのです。子ども会も問題になっています。また，自治会の役員の方からは，毎年ボウリング大会を子ども会でやっていたそうです。市から補助も出るらしくて，子どもたちがすごく楽しみにしていたのだけど，みんな参加しなくなって，家族で行くからいいよとなってしまったようです。親御さんの考えも昔と違ってきているし，コロナもあったせいもあるんだと思いますが，何か崩壊しているような，気がしました。

（山下）
　はい，ありがとうございました。

（渡部）
　私は要望あるのですが，松戸の乗り合いのクリーンスローモビリティが，常盤平団地で動いているので，長寿支援課に言ったことがあります。ライドシェアってあるじゃないですか，相乗りです。これは本当に進められていくべきだと思います。法制化などいろいろ問題もありますけども，八千代市は広いので大事なことだと思います。そんなことも含めて，よろしくお願いしたいなと思います。

（山下）
　タクシー業界やバスの労働者不足が起こっているので，そういう議論がしやすくなった環境にはあると思うので，様々な取組みと，リスクも含めて，検討を前に進めるっていうことが重要でそれをどういうふうにやるかということになると思います。この場で決められることではない取組みなので，それをぜひ期待したいですね。中村先生からお願いします。

（中村）
　はい。去年から会議に出させていただき，1年間コロナも開けていろんなところで集まるようになってつくづく思っているのが，情報の集約化なのかなという気はしていて，この中でも，支会があり，自治体があり，そして長寿会連合会などの団体がいろいろなことをなさっている

と思います。
　それが悪いと１ミリも思っていなくて，それぞれ情報を発信しているのだけど，やっぱり届かないっていうこともあると思います。この前，１月８日に，私たちNPO法人やちけあという，医師会，歯科医師会，薬剤師会，看護師会，地域包括支援センター，八千代市などが入ってもらってやっているのですけど，多分ご存じない方もいらっしゃったと思います。そこでやちけあフェスをやりました。
　市が入ってくださっているけれど，住民には情報が届いてないこともあって，200人ぐらいは集まってくださったのですけども，それぐらいだったっていうのもあって，一つはいろんなところでいろんなことをやり過ぎていて，もうどこに行っていいか分からないっていうのもあるのかなと思います。
　今のNPO法人やちけあで，私がやりたいと思っているのは，医療，介護，福祉，他職種，そもそもNPO法人やちけあというのは，医療福祉介護をやる側がしっかり連携をとって地域を支えようということで，医師会を中心に立ち上げた団体なのですけど，情報が分散しているので，きっと色々なしがらみがあって，なかなか共同で出せなかったりするような気がしています。あと，地域包括支援センターはホームページに発信する人がいない。その術がないというのを聞いたので，単純だけど，何月何日にどこで何がどの主催で行われているというイベントの一覧が公的なものとして，個人がやっているのは微妙ですが，地域包括支援センター，支会，自治体，長寿会連合会は会員という対象があると思うのですけど，誰でも参加できるものをひとつのホームページなどで集約する作業をやりたいなと思っています。
　あと，吉野さんがおっしゃったみたいなつながりの仕方が，すごく世の中変わってきていると感じています。私の外来の患者さんがおっしゃっていたのが，クラブとか最初は楽しくやっているのだけど，長くいると絶対に役割を任せられると。そうなるともう嫌になって次に行くとおっしゃっていて，それちょこちょこ聞きます。楽しいことと，地域のためにやることは両立してってほしいですけど，みんな自分勝手なので，いいとこ取りをしたいという方もいて，でもいいとこ取りをしたい人とも緩くつながっている地域は大事かなと思っていて，皆さんみたいに志が高い方ばっかりが，住民ではいらっしゃらないから，何か面倒くさいから嫌だけど，これは行ってみようみたいな感じでちょっと人の顔が分かるみたいなところからだと思います。理想的なのはみんなで力を合わせて地域のことを考えてやっていくことですが，それを言うとは面倒くさいって言われてしまいそうで，やりたいときだけ行ってみようかなと思ってもらえるところからだと思います。
　来年度は，個人的には頑張ってみたいなと思っていて，そのためには皆さんから各行事などを集めて，やちけあのホームページに行ったら一覧に，市民の方が参加できるイベントを載せることが私の夢です。夢ですが，私としてはまず情報と緩く繋がるっていうところで，イベントに集まった人数が一つ評価かと考えました。以上です。

（山下）
　はい。ありがとうございました。どなたか最後一言ありますか。

（渡部）
　いいですか。ほっこり大和田には，毎日に来ていますから，いろいろ人が来て，高齢者ほとんどがいい雰囲気でいいなと思っているんですよね。もっと八千代市内に増やしてほしいです。場所の問題あるでしょうけども，やっぱり大事なことかなと思っています。以上です。

（山下）
　はい。どうもありがとうございました。この資料４をご覧頂きまして，取りまとめ表が，ありますし，皆さんは資料５のほうで，それぞれの項目についての主観的，客観的な評価が主に資料５ですね，資料４のほうがちょっと詳細に書いてあります。基本目標１施策の方向性で，福祉教育の推進研修会などの項目について皆様の今日の発言からは，その手前の情報提供とか，何人ぐらい集まるかっていうことの可能性についてもう少し，手間をかけていかないと，計画の実行に伴わないのではないかっていうこの市の取組の推進開催という手前のところからもう少し，行政も含めて工夫すべきだといったご意見だと思います。

施策の方向性2番目が，居場所づくりの推進で，緩く活動できるっていったことも含めた情報提供になります。これは，活動計画における呼びかけ方もあるかと思いますけど，出入り自由とかそういうことは言っているはずなのですけど，躊躇される方がいる中でどういうふうな声掛けができるのかといったことになろうかと思います。

施策の方向性3番目のボランティア市民活動への促進です。ここは，個人のボランティア活動のところになると思うので，これもどこかのサイトに一つ行けば，その活動に行けるところが分かるっていったことやボランティアや市民活動，地域活動という言葉もないと，ボランティアとまでは言わないけれどといった地域住民の方もいらっしゃったりするので，そこも一つだと思います。社会福祉協議会の事業としてはこれで成り立っているんだとは思いますけど，もう少し広がっていくかもしれないです。

取組の方向性の4番の担い手の養成講座の話題が特に出ませんでしたけれども，あんまり強いことを依頼すると断ってしまう，会長さんはやりたくないなど，会長さんになりうる人の講座をどう開くかという，そのマネジメント講座をやっていかないと，何でもかんでも大変なことになってしまうので，企業でもインバスケット方式とか，いろんなマネジメントのトレーニングプログラムがゲームシミュレーション方式であったりして，限られた時間でそのマネジメントをどうするかっていったら，いわゆる企業のマネジメントでも管理職はそういうのがみんなやりたくないのです。なんかそういうのをやりたくないので，水平な関係で進めていくのがもしかしたらこういう活動も複数代表制などがあります。そういうことがこの4番です。

で次の5番の住民が見守り相談できる体制づくりは，ここに長寿会や民生委員も含めてもう少し幅広い，いろんな人たちがこの相談といったものに参画しているっていうことをもう少し，行政計画の中で位置づけを明確にしないと，行政の総合相談で受け止めるっていう窓口の仕組みと，あとは市民レベルでいろんな相談をしていることが，この資料の中では見えにくいし，またやちけあといったグループとか，いろんなNPOの広がりもあるってことも含めて，推進していくといったことが重要かと思います。

方向性6番については，皆さんも注目しているってことですけど，先ほどの参加者を12名で，締め切っちゃうとか，そうした人数とか，あとはオンデマンドなどの後で見逃しでも聞けるし，家にいて，ユーチューブをつなげば，見られるっていうとそういったことを工夫するかどうかっていったこともあるかもしれないですね。ユニバーサルデザインのところで方向性のところは先ほどのスローモビリティーや巡回バスなど根本的な道路状況の把握を理解することも含めて，相乗りなどが可能なのか，これも毎回定期的に見直さないと，そこにいる状況と人と環境で変わるので，これは非常に重要な点だっていう意味で，活動計画等でも，今後の学習会のテーマになるかもしれないし，自治体で先行的な取組を研究されるのだと思います。

方向性の8番。権利擁護体制は，権利擁護連携支援センターができるということですので，まずは各事業所の連携を進めていくっていうのが重要なのと，先ほど長寿会連合会等でもあった既に消費者被害を受けている方がいらっしゃるという状況について，市民目線でどういうふうに取り組むのか，行政任せではなくて自主自衛方式っていうか，だまされないっていうか，何かそういうことの取組といったものをどういうふうに活動計画等でも見ていくか重要かもしれないです。

方向性の9番の住民組織活動の支援では自治会に関連する，補助を交付しているといった内容や，まちづくり事業についてのことが書かれていますけど，加入率が低下についてどう取り組むのかということをもう少し意識しながら，その次の計画策定の際に，どういう計画が重要なのかといったことも含めて，自治会連合会で要望も出されていることもあるでしょうから，それも教えていただきながら，自治会等の取組みについて市のほうが予定された事業をおおむね実施できているといいますが，実施できているけど，加入率が低下しているってことについてはどう捉えるかといった観点で，この審議会でどこまでやっていいのか分からないのが，悩ましいところです。

方向性の10番については今日特に出てきませんでしたけれども，調査結果等でもこの課題は出ているので，生活困窮者自立支援制度や他部局の取組を少し伺いながら，次期計画で，活動については考えたほうがいいかもしれないです。

11番の地域共生社会に関する啓発や支援が必要な方の理解促進というのは子どもや，障害の方の施策について，触れられていますが，今日の発言だと，子ども会といった組織や子育てを

する障害があるないにかかわらずお母さん，お父さんの取組み，関わり方の支援についてどのように進めていくか，地域共生社会は，関係者や市職員にも十分に浸透できてないって書いてあるので，庁内で学習会を開くという行政職員の取組みや庁内の職員がそうした方の相談にどうやって乗っていくのかという研修も少し考えていかなきゃいけなくて，幾つかの自治体に関わって，全職員に3年間かけて相談援助の基本を教えるとかそういうのをやったりしているのですけど，市町村の職員の方が保健医療福祉に関連する相談をつなぐところまでのレベルに上げていくといったことも必要かもしれないですね。

そして14番以降は情報提供に関連することが多いので，中村委員からのご発言にあった情報の一元化というのか，もうちょっと格好いい言葉つくって，何か情報のポータルサイトなのか，行政だけで予算化してやろうというよりも，社会福祉協議会とか，やちけあさん，長寿会さんとかそういうそうした構成組織の中で情報を集めていくといったことを，どうやって進めていくのか，中期的に視野を持ちながら，まずはできるところから進めていくため，第2期の計画の中にどれぐらい盛り込めるか，というのが，今日の皆さんの評価のディスカッションの中で出てきたことかと思います。勝手にまとめてしまいましたけれど，何かありますか。ありがとうございました。では事務局にお渡しします。

（小野）

皆さんありがとうございました。今，会長からもお話があり，今のご意見を庁内各課にフィードバックさせていただいて，特に市民の方が気になる移動や情報の伝達を庁内で考えさせていただければと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。今伺った意見で社協さんのほうから何かあればお願いいたします。

（新井）

社会福祉協議会の新井です。いろんなご意見ありがとうございます。我々も今日のご意見を参考にさせていただいて，我々が策定する地域福祉活動計画にも有効な形で進めていける材料が頂けたと思いますので，今後ともご意見頂ければと思います。
ありがとうございました。

（山下）

では今後の方向性と次回に関する内容と全て含めて事務局からお願いします。

（鈴木）

前回，重層的支援体制整備事業の実施計画と成年後見制度促進計画を章立てして，内包すると話はしておりましたが，この二つの計画を推進するのは，各計画に今回のような協議会を設置する予定ですので，そちらで話合いをしていただく形で方向を考えています。

また第2期策定のため，4月にコンサルと契約後に骨子作成することとなりますが，基本的な骨組み，理念，基本目標を19の施策の部分は変更しないにしても，市民の方に内容が分かりやすい計画書にする上で，第4章の市の取組の方向性と第6章の活動計画の取組の見せ方をどうするかなどは，今後市で案を作成して協議会にてご意見頂きたいと考えております。
社協さんから何かありますか。

（新井）

我々が開催させていただきました地域懇談会，こちらの来年度以降の考えなのですが，先ほどの意見もございましたし，いろいろ参加していただいた方からは，やっぱり7圏域ではちょっと範囲が広すぎるので，自分の地区別計画の中に自分の意見が反映されていないというようなところもありました。

また先ほど槌田からもありましたように，福祉関係団体のアンケートですと，代表の方のみとか，その人の偏りの意見がどうしても出てしまうので，もう少し現場の声を出せる場があるといいねというようなご意見も頂いております。そのため，我々としては，来年度以降，この地区懇談会に関しましては，先ほどから出ている21の支会ごとにエリアを分けまして，もう少し細分化しようと思っています。その中には，障害当事者や社会福祉委員，医療関係，福祉関

係，また企業や商店，先ほどのようなモバイル関係があれば，そういった交通の事業所さんとか，そういった方にも参加頂きながら，なるべく，近くの自治会館や公民館で開催しながら，参加のしやすい環境づくりをしたいと思っていますし，先ほどの先生のほうからもありましたように，イベントですとかお祭りですとか，そういった人が集まるところでいろいろな意見を聞いていくというような手法も活用させていただきながら，なるべく多くの方に，参加頂けるような取組をしていきたいなと思っておりますので，来年度以降もよろしくお願いいたします。私のほうから以上です。

（鈴木）
　最後に次回の開催は5月16日午前中に開催予定です。報酬の支払いについてですが，本日の会議にご出席された委員報酬につきましては，3月下旬のお支払いを予定しております。事務局からの報告は以上になります。